

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 日和聖奈(Hiyori Seina)
所属 (School) 生命環境科学域 自然科学類
学年 (Grade) 4年

留学先 (Name of overseas institution)
University of Technology Sydney(交換留学)
留学期間 (study abroad period)
2017/2~2018/2
記入日 (Date) 2018/3/14

留学レポート Study Abroad Report

私はシドニー工科大学に約一年間交換留学に行っていました。
これから留学を考えている人の参考になればと思い私の留学体験談を書かせて頂きます。

まずなぜ留学しようと思ったのか、そのきっかけについて。
元々英語が好きで、仕事やプライベートで英語を日本語同様に使いこなせる人間になりたい、未体験なことに挑戦し自分を成長させたい、との思いから留学にいきたいと思っていました。
さらに、留学を経て自分がどんな社会貢献をしたいのかを考えるうちに、京都の町屋問題、観光問題を解決する手段を考えられる人間になりたいと強く思うようになりました。

そこで、英語力はもちろんのこと、建築科の正規科目を受け知識をつけること、そしてたくさんのごとに挑戦し充実した留学生活を送ることを目標に旅立ちました。

私は大学の学生寮の6人シェアルームで生活していました。寮では、毎日何かしらのイベント(勉強・遊び)が開催されていたので、積極的に参加して友達作りに励みました。
大学では1学期目は Australian Language And Culture (以下 ALAC)、2学期目は建築とビジネスのコースを履修しました。困みに、正規の授業を受けるには IELTS 又は TOEFL の基準点を越さなければならなかったため、1学期中にスコアを取り、2学期から正規科目に移りました。

1学期の ALAC の授業では単に英語を学習するだけではなく、オーストラリアの文化や歴史、そしてジェンダーやバックグラウンドの多様性の観点から見た雇用体系など幅広く学ぶことができました。ただし、それほど高度な英語レベルではなかったこともあり自分なりにより積極的な授業中の発言、レポートやプレゼンの課題に取り組みネイティブの友人に添削依頼など、目一杯活動しました。
1学期中に IELTS の勉強に励み、無事2学期からは正規科目に移ることが出来ました。IELTS はスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの4つの項目がありますが、友達や先生にスピーキングを手伝ってもらったり、ライティングのアドバイスをもらったりと、周りの人に助けをもらいながら勉強を進めました。

そして2学期からは建築とビジネスを履修したわけですが、実は建築は1科目しか受講できませんでした。建築は専門性が高いため、もともと学校で履修していないと受講ができないと断られてしまいました。相談して初学者でも受講できるものを探してもらい、なんとか1つ受講でき、残りの2科目は次に学習したかったビジネスを選びました。留学前には把握できなかったことや、webで調べてみたものの分からないことは、どんどん聞きに行ったほうが早いな、と実感しました。

実際に受講してみた感想ですが、今までの学生生活で一番辛い授業期間になりました。周りを見ればほとんどがネイティブという事もあり、ノートの書き取り、発言力、全てにおいて遅れをとっている、と感じました。予習復習を徹底しましたが、それでも理解できないところがあったり、発言するのを躊躇してしまったりと、自分の不甲斐のなさに嫌になる時もありました。3教科ともグループレポート(+プレゼン)と小テスト、期末試験があったのですが、特にグループレポートには苦戦しました。専門外を取ったという事もあり、内容の理解が薄い状態で、授業で扱った以上の内容をレポートにしなくてはならず、話し合いの先頭を切ることはできませんでした。それでも、周りの学生はとても意欲があり、私に分からなくてレベルの低い発言をしていたとしてもしっかりと聞いてくれて、質問にも答えてくれたので、頑張っについていかなければ、と気合いが入り、完成させることが出来ました。大変でしたが、刺激をたくさん受けて、やりきった達成感も感じられ、新しい科目に挑戦してよかったなと今は思っています。

さて、ここから英語力について少し書かせていただきたいと思います。留学に行ったら自動的にペラペラになるのか、と言われれば答えはNOです。私は、いかに話す聞くの実践の機会を“作る”かが大切だと思いました。正直、到着して間もない頃は周りが言っていることの半分しかわかりませんでした。さらに、オーストラリア訛りとなるともっと難しくルームメイトに“Did you get a mail?”と聞かれたのが聞き取れず、10回ぐらい聞き直したのを鮮明に覚えています。そこからは必死で話す聞くの機会を作りました。ルームメイトと話す、イベントに参加する、自分から連絡して会う機会を作る、meet up というサイトを利用して新しい人と出会う、など方法はたくさんあります。いくら語彙力があっても実際に使えないと意味がありません。なので、とにかく行動する、これが大切だと実感しました。私が後悔していることは、行く前に語彙や言い回しの知識を十分にすることが出来なかったことです。もちろん留学先で、日々英語で日記をつけたり、単語帳で勉強したりしていましたが、準備段階でもっと知識をつけていたならもっと早く話せるようになったのかな、と思います。

また、英語を話す機会はもちろんのこと、全てにおいてとりあえず行動することも大切です。例えば履修の仕方、レポートの進め方を聞く事だってそうです。自分で調べることも大切ですが、日本とシステムが違ったりして自己解決できることは少なかったです。話す機会を作れて、迅速に事が進められると思うので、何事にも早め早めの行動を心がけてくださいね。

私は3回生で研究室配属されて、半年研究をした後、1年間留学に行きました。時期やタイミングもベストとは言えなかったのですが、これがラストチャンスになるかもしれないと思い踏み出しました。

今留学で迷っている、少しでも自分を成長させたい、と思うなら私は行くことを強くお勧めします。現地で実際に経験しないとわからないことだらけで、そう行った貴重な経験が自分を深みのある人間に成長させてくれると思います。

最後に、留学を成功させる事ができたのには沢山の方の協力がありました。留学を決意するまで、決意してから留学を決定するまで、留学に行ってから、など沢山のプロセスを踏みましたが、友人や先輩、先生方の助けがあったからこそでした。

私の交換留学を支えてくれた国際交流課の方、研究室の先生、並びにいつも支えてくれた家族と友人には感謝してもしきれません。

皆さんが素敵な留学生活を送れることを心から願っています。

